

## 平成29年度 東京都立若葉総合高等学校 学校経営計画

校長 根本 浩太郎

### 1 教育目標

- (1) 開拓の志と創造力を育む。
- (2) 社会に貢献する実践力を養う。
- (3) 自律の心と個性を伸ばす。

教育目標のコンセプトとして、“To be ambitious, active, and attractive”ー私たち教職員一同は、大志を抱き（Ambitious）、生き生きと活動し（Active）、魅力あふれた（Attractive）若者が巣立つ学校を目指すーと謳っている。

### 2 目指す学校

本校は、全都4校目かつ多摩地区最初の総合学科高校として平成17年4月に開校し、以下の3点を学校づくりの基本理念（目指す学校像）としている。

- (1) 生徒一人一人が、学力の確実な定着と体験的・実践的な学習活動を通じて自己の進路を開拓し、実現することができる学校
- (2) 生徒相互が個性を尊重し合い、自分に誇りを持ち、社会での義務や責任の大切さを学ぶ学校
- (3) 地域に開かれ、地域に根ざし、中高大の学校間連携を密にする学校

### 3 中期的目標と方策

#### (1) 学校運営

##### ① 全教職員が課題を共有した、組織的な学校運営を行う

都立高校学校経営指標に基づいた学校運営を通して、全教職員が課題を共有し、また、課題解決に向けた協力体制を強化し、組織的な学校運営を推進する。

##### ② 執務ガイドラインを活用した校務運営を行う

執務ガイドラインの活用や各分掌における仕事内容の精査・整備を行い、分掌組織マネジメントサイクル（PDCA）への取り組みを通して、課題解決に向けた効率的な校務運営を行う。

##### ③ OJTガイドラインを活用した若手教員の人材育成を行う

東京都教員人材育成方針（平成27年2月改正版）に基づき、OJTガイドライン（平成27年10月第3版）を活用したOJTを推進し、若手教員の人材育成を行う。

##### ④ 防災活動・環境美化活動等による地域との連携を強化する

地域への社会貢献活動などの体験活動を重視した教育活動を推進し、地域との連携強化を図る。

##### ⑤ ESDを推進する

現在、世界が直面している環境問題、資源エネルギーや食料問題等の様々な課題を相互に関連付けるとともに、自らの暮らしや地域の課題と結び付けて考え、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育であるESD（Education for Sustainable Development）を推進し、生徒が、異なる文化や多様な価値観を学び、様々な課題を国際的な視野から捉え、共に解決策を考える活動に取り組むなど、次代を担うアクティブラーナーとなるよう育成を図る。

## （2）学習指導

### ① 基礎・基本を重視した学力の向上を図る

不断の授業改善を通して分かりやすい授業実践を行い、授業の質的向上を図り、基礎・基本を重視した学力の向上を推進する。

### ② 長期休業日の講習等を計画的に実施し、生徒の能力を引き出す

長期休業日中の講習等を計画的に実施し、生徒の能力を最大限に伸ばす指導を行う。

### ③ 外部人材や外部機関等を活用し、学習指導方法の改善を通して教科指導力の向上を図る

外部人材や外部機関等を活用した授業評価等を行い、学習指導方法のさらなる改善を通して教科指導力の向上を図る。

### ④ 読書活動等を推進し、生徒の言語能力の向上を図る

### ⑤ 国際交流活動の推進や語学力等の指導を通して、グローバル人材の育成を図る

## （3）生活指導

### ① 生活指導指針に基づき、生活指導部を中心とした組織的な生活指導を行う

組織的な生活指導を行うことにより、生徒の健全育成を推進するとともに生徒の規範意識をはぐくむ。

### ② 身だしなみや、礼儀作法等の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る

### ③ いじめゼロの学校、体罰・暴言等の一切ない学校を目指す

いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組み、教員と生徒との間が高い信頼関係で結ばれた学校を創る。

## （4）進路指導

### ① 進路指導部と学年が連携し、生徒が主体的に自らの生き方・あり方について考え、希望進路を実現できるようにする

進路指導部と学年が連携し、三年間の計画的・系統的なキャリア教育を実践することにより、生徒が主体的に自らの生き方・あり方について考え、自ら進路選択して希望進路を実現できるようにする。

### ② 進路指導部を中心とした組織的な進路指導を行うことにより、計画的・系統的な三年間のキャリア教育を行う

三年間を見通したキャリア教育推進計画に基づいて、学年と連携を図って計画的に取組み、全教員による進路指導体制を構築しキャリア教育を推進する。

### ③ 資格・検定等の取得を奨励し、得意分野をもつ生徒の育成を図る

資格検定（漢字検定・英語検定）等の取得を奨励し、教科・学年との連携を図って、得意分野をもつ生徒の育成を行う。

## (5) 特別活動・部活動

- ① ホームルーム活動の充実を図り、生徒のコミュニケーション能力の育成を図る  
年間指導計画に基き、ホームルーム活動の充実を図り、生徒相互の信頼関係を築いて、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図る。
- ② 学校行事の質的向上を図り、豊かな人間性を育む  
学校行事の意義付けの明確化と質的向上を図り、生徒に達成感や協調性をもたせ、豊かな人間性をはぐくむ。
- ③ 部活動の参加率の一層の向上と指導内容の工夫を図る  
部活動の参加率の一層の向上と指導内容の工夫を図り、生徒の意欲的な活動や主体的な行動をはぐくむ。
- ④ 東京都教育委員会指定「スポーツ特別強化校」部活動（陸上競技部、ソフトボール部）の一層の強化を図る

## (6) 安全・健康指導

- ① 生徒の健康や安全に対する意識の向上を図り、自助・共助の精神を培う  
セーフティ教室や交通安全教室、SNS東京ルールに基づく情報モラル教育を通して、生徒の安全・健康指導を行う。避難訓練を通して防災教育に実践的に取り組むとともに、生徒の健康や安全に対する意識の向上を図り、自助・共助の精神を培う。
- ② 食育指導を充実し、基本的な生活習慣の確立と健康保持の自覚を高める

## (7) 募集・広報活動

- ① 経営企画室と教務部が連携を図り、中学校訪問や塾訪問、学校説明会等を組織的に行う  
経営企画室と教務部とが連携を図って、募集・広報活動について早期から取り組むとともに、中学校訪問や塾訪問、学校説明会への参加及び体験教室等の実施を組織的に推進する。
- ② 学校ホームページの更新を定期的実施し、学校ホームページの充実を図る  
教育活動の情報を広く対外的に発信するために、ホームページ管理運営委員会による学校ホームページの更新を定期的実施し、学校ホームページの充実を図る。
- ③ 稲城市教育委員会、稲城市中学校関係者や本校PTA等との連携を図った募集・広報活動を推進する

## (8) 施設設備管理・経営企画室運営

- ① 生徒の安全確保のために、施設設備の保守点検及び改善を随時実施する
- ② 自立経営推進予算の執行率を高める  
自立経営推進予算の執行を経営企画室と各分掌の連携のもとで適切に管理し、執行率を高める。
- ③ 経営参画型の経営企画室を推進する  
学校の広報を教務部と連携を図って積極的に行う。

# 4 今年度の取組方法と方策

## (1) 学校運営

- ① 各分掌における業務の効率化を図るため昨年度の課題を踏まえ、分掌組織のマネジメントサイクル

- (PDCA) を活用し成果と課題等の情報共有を図るとともに、効果的な進行管理と学校運営を行う。
- ② 若手教員等に対して、主幹教諭や主任教諭の経験を生かした職場内OJTを推進する。特に、教員相互の授業参観を通して学び合う機会を増やし、若手教員等の育成を図る。
  - ③ 防災教育、環境教育、奉仕体験活動等を充実させるために、稲城市等地域との連携強化を図り、社会貢献を担える生徒の育成を行う。
  - ④ 東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針に基づき、「自己を肯定し、自らの目標を持って、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人間」「スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間」「日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間」「多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間」の育成を図るため、東京都教育委員会指定事業である「平成29年度夢・未来プロジェクト」等を活用し、オリンピック・パラリンピック教育を一層推進する。

## (2) 学習指導

- ① 各教科における昨年度の課題を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを意識した教科のマネジメントサイクル(PDCA)を活用し成果と課題等の情報共有を図るとともに、組織的な授業力の向上を一層推進する。また、詳細な内容のシラバスを作成提示し、生徒の理解を深めながら学習指導を進めるとともに、教科指導を通して生徒の基礎的・汎用的能力と知識・技能を育成し「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、いわゆるアクティブ・ラーニング型授業を一層推進し不断の授業改善を図る。
- ② モーニングワーク(朝学習)により生徒に学習習慣を身に付けさせ、授業内容等とオンライン学習サービス利用を関連付けるとともに週末課題等を通して家庭学習の定着を図る指導の工夫を行い、基礎学力の定着を図る。
- ③ 都立高校学力スタンダードに基づき、ICTを積極的に活用するなどの授業改善や指導方法の工夫を通して授業の質的向上を図り、ユニバーサルデザインに基づく分かる授業を行い、生徒一人一人の学力の定着を図る。
- ④ 放課後の自習や個別指導などにおける自習室の効果的な活用を図る。さらに、長期休業日中の講習等を計画的に実施し、生徒への学習指導の強化に努めるとともに、生徒の基礎学力の向上を図る。
- ⑤ 読書強化月間・週間、読書に係る課題などを通して生徒の言語能力の向上を図る。また、各種の検定試験(漢字検定、英語検定)等の取組を通して、学習指導との相乗効果を図る。
- ⑥ 東京グローバル・ユース・キャンプ、トビタテ留学JAPAN高校生コース、海外短期留学等への参加を奨励するなど、国際交流事業の推進や語学力等の向上を通して、グローバル人材の育成を図る。

## (3) 生活指導

- ① SNS利用モラル向上について、外部講師による講演会や教科・科目「社会と情報」の授業における指導機会を活用するとともに、ホームルーム活動や学年行事及び学校行事等に積極的に取り組ませ、集団活動を通して望ましい人間関係の構築、人権意識の醸成、道徳的実践力の育成、協調性や協働意識をはぐくむ指導を推進し、人間関係形成能力やコミュニケーション能力の向上を図る。
- ② 生活指導指針に基づき、生活指導部を中心とした生活指導を各学年等と連携を図り組織的に推進し、挨拶や礼の励行、遅刻・化粧・スカート丈・頭髪・服装・装飾品等の指導の強化、規範意識の醸成、規律やマナーの遵守、清掃の指導の徹底を図り、生徒が落ち着いて学校生活を送れる環境づくりを推進する。

- ③ いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組むため、年3回のアンケート調査により諸課題を的確に把握し、学校いじめ対策委員会、学校サポートチームとの連携を強化して対応する。
- ④ 個別指導では丁寧な指導に心がけて生徒との信頼関係を構築し、集団指導では生徒に十分な説明を丁寧に行いながら厳しい指導も取り入れて、学校生活や社会生活における規範意識を醸成する。また、集団に対する秩序維持に向けた厳しい指導と個人に対する分かり易く丁寧な指導を組み込み、心を込めた指導を実践する。
- ⑤ 基本的な生活習慣の一層の定着とノーチャイム制・放送によらない掲示板を活用した連絡の徹底による生徒の自律心、自己責任感の育成を図る。また、学年集会や全校集会での指導を通して、規律やマナー等の規範意識の醸成、道徳心と道徳的実践力の育成を図り、誇りと自信がもてる生徒を育てる。

#### (4) 進路指導

- ① 総合学科高校の特色を生かし、生徒の進路実現に向けて、「産業社会と人間」から「総合的な学習の時間（マイプロジェクト）」に至る計画的・継続的なキャリア教育を推進する。また、キャリア教育の充実を図るため、学習・生活・進路の3領域について、総合的な進路指導を行い、生徒個々の進路希望の実現に取り組む。
- ② インターンシップ（就業体験）や職場体験などの体験から学ばせる機会を増やし、職業観、勤労観、自己理解を深める工夫をした指導を実践する。
- ③ 学年と連携して、生徒対象進路説明会・保護者対象進路説明会や教員対象進路分析会を計画的に実施するとともに、保護者会や各種面談を増やして生徒及び保護者の理解を図り、生徒個々の適性や能力及び希望等に応じた丁寧な指導を行う。
- ④ A0入試・推薦ゼミや論文指導・面接指導、一般入試対策指導、大学入試センター試験対応のための進学対策指導や就職対策指導などを、学年担当や教科担当と連携し計画的かつ組織的な指導の充実を図る。

#### (5) 特別活動・部活動

- ① 年間指導計画に基づいたロングホームルームの実施を通して活動の充実に努め、課題解決能力とコミュニケーション能力の向上を図るとともに、協調性や他者を思いやる態度を育成する。
- ② 体育祭及び文化祭の活性化と質の向上に向けた工夫と改善を図る。また、生徒の活動時間及び教員の指導場面を設け、活動や指導の成果を向上させる。
- ③ 新入生を主対象として生徒一人一部加入指導を促進し、部活動の参加率の一層の向上と活動内容の質の向上に努める。部活動指導に当たっては、体罰や不適切な指導は絶対にせず人権に十分に配慮した指導を行い、バランスのとれた学校生活と生徒の発達段階に応じた成長の視点から部活動休養日を週1日設定する。
- ④ 外部人材（スーパーバイザー）等を活用し、当該部活動顧問や生徒への専門的な知識や技術指導により、東京都教育委員会指定「スポーツ特別強化校」部活動（陸上競技部、ソフトボール部）の取り組みを充実させ、当該部活動の一層の強化を図る。

#### (6) 安全・健康指導

- ① 実際に起こりうる事故に関する恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐスクエアドストレートによる交通安全教室を企画立案実施し、交通事故の未然防止及び交通規則の遵守、交通マナーの向上を図り、自他の生命を尊重させる。

- ② セーフティ教室、薬物乱用防止教室、災害非難訓練等の防災教育、食育指導等を実施し、生徒の安全と健康、防災に対する意識を一層高める。
- ③ 地域関係機関との連携を図り、生徒の登下校時の安全確保に努める。
- ④ 「アクティブプラン to 2020ー総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）ー」に基づき、生徒の発達段階に応じた基礎体力づくりを推進する。

### （7）募集・広報活動

- ① 教務部が中心となり、学校説明会、中学校訪問、塾訪問を計画的に実施するとともに、本校ホームページの更新と内容の充実を図る。さらに、経営企画室と教務部とが連携して広報活動の充実に向けて取り組む。
- ② 中学生向けの体験教室や部活動の体験入部等を積極的に実施する。
- ③ 稲城市中学校関係者や本校PTA等との連携を図り、本校を会場とする都立高校合同説明会実施など、広報・募集活動を計画的に実施する。

### （8）経営企画室運営

- ① 自律経営推進予算の執行状況について、月毎の資料提示を定着させ、適切に管理する。
- ② 校長の学校経営を補佐するために、経営参画型の経営企画室運営を実行する。特に、学校の広報を経営企画室と教務部とが連携を図って積極的に行う。

## 5 重点目標と数値目標 [数値は、平成29年度の目標]

### （1）学校運営

- 保護者の学校満足度 90%以上
- 総合学科関係研究会への教員参加 10名以上
- 初任者等若手教員研修会の実施 6回以上
- 教員相互の授業参観 2回以上

### （2）学習指導

- 生徒の授業満足度 必履修科目75%以上、選択科目90%以上
- 長期休業日中における講習 50講座・500時間以上
- 図書貸し出し数 3000冊以上
- 各種検定の合格者数
  - 漢字検定【準2級以上】 10名以上
  - GTEC 等受検者 5名以上
  - 英語検定【準2級以上】 10名以上
  - パソコン検定【3級以上】 10名以上
  - 日本語ワープロ検定【3級以上】 10名以上
  - 簿記検定【3級以上】 5名以上

### （3）生活指導、特別活動・部活動

- 遅刻生徒数 3%以下

- 特別指導対象件数 5件以下
- 部活動加入率 85%以上
- 関東大会出場レベル部活動 2部以上

#### (4) 進路指導

- 進路決定率 94%以上
- 大学・短大進学率 60%以上

#### (5) 募集・広報活動

- 学校見学会・学校説明会・個別相談会の参加者 2000名以上
- 文化祭来場者 2500名以上
- 中学校・学習塾への学校説明訪問 100校以上
- ホームページ更新 150回以上
- 推薦に基づく入学選抜応募倍率 2.8倍以上
- 学力に基づく入学選抜応募倍率 1.6倍以上

#### (6) 経営企画室の経営

- 第3四半期、予算執行率 75%以上
- センター執行率 45%以上